

# 元氣いっぱい 夢いっぱい

名月を取ってくれと泣く子かな (小林一茶)



9月(長月:ながつき)です。日本では古来から月を愛でる風習があり、今月15日を特に「中秋の名月」と

称してお月見をします。(今年の満月は9月17日です。)

また、月の呼び名は満月、三日月、新月などが有名ですが、満月後の数日間の名前は面白く覚えやすいので、ご紹介いたします。

- 16日 いざよい →出るのをためらう月
- 17日 立ち待ち月 →立って待つ月
- 18日 居待ち月 →座って待つ月
- 19日 寝待ち月 →寝て待つ月
- 20日 更け待ち月 →夜更けまで待つ月

お月見は世界中どこからでも楽しむことができます。秋の夜長、家族でのお月見会はいかがでしょうか。

## オリンピックの目的

<大活躍の日本選手>

8月6日から17日間続いたリオデジャネイロオリンピックが心配された大きな混乱もなく無事終了しました。日本は史上最多の41個のメダルを獲得し、いまだに余韻が残るほど国内外で大いに盛りあがりしました。特に陸上400mリレーの銀メダルは、日本陸上に快挙をもたらしただけでなく、若い4人の走者のスタートやバトンパスの創意工夫、豊富な練習量が賞賛されました。



<参加することに意義がある>

このように祖国の選手の頑張りを応援し楽しむことは決して悪いことではありません。しかしながら、メダルの数だけを追い求めて獲得数を競いあつたり、国力を誇示することに偏ることは、本来の五輪の目的からは少し離れるように思います。ご存知の通り、五輪の目的

は、近代オリンピックの創始者クーベルタンが提唱した「平和でよりよい世界をつくることに貢献すること」であり、「オリンピックで重要なことは、勝つことではなく参加すること」であるはずですが、この本来の目的を忘れないようにしなければなりません。

<次は東京、平和な世界で>

五輪は「平和の祭典」とも言われています。それは、スポーツが平和な世の中があつてはじめて競技や応援に熱中することができるものだからです。4年後の東京五輪では、今よりさらに平和な世界の下で、メダルの数を競うことだけでなく、「参加することに意義がある」と選手たちが胸を張って言える大会をみんなで創っていきたいものです。



## 今年もワッショイ！夏まつり(幼児部)

ドスコイ！

ドスコイ！



(おすもうさんの夏祭り)

8月27日、幼児部恒例の夏祭りが行われました。午前10時過ぎ、中庭の芝生広場に集合して、お神輿と盆踊りを楽しみました。

お神輿は、にじ組が忍者屋敷、そら組がクジラをテーマとした2種類を年長さんが交替でやぐらを2周、ワッショイワッショイと練り歩きました。その後、幼児部全員で「おすもうさんの夏祭り」「ちらし寿司音頭」を元気に踊りました。今年も年中さんは青、年長さんは赤の芝生の緑に映える可愛らしい法被姿で、華やかな祭りの雰囲気さをさらに盛り上げました。

11時から、オーデトリウム前のホールで「縁日」をテーマにヨーヨー釣り、的あて、金魚すくい、おぼけトンネルを楽しみました。



(ねらって狙って:的あて)



各ブースを終えるごとにもらえるシールも楽しみの一つで、シールコーナーでは「シールはってくださーい」の声が絶えることが

(ヨーヨー釣れたかな?) ありませんでした。

「縁日」終了後、全員を集めて感想を聞く場面では、「楽しかった？」の問いかけに、全員の手が挙がりました。また、「おばけトンネルどうだった？」という先生の質問に、女の子は「こわかった」という感想が大半でしたが、男の子からは「ぜんぜんこわく



なかった」「暗いだけだったよ」と、少し強がりの混じった感想 (シールはってくださーい) も聞かれました。ボランティアでお手伝いいただきました多くの保護者の皆さま、ありがとうございました。

### 補習授業校で学び続けるための

### 親の心得

年度の中間にあたるこの時期、子どもが補習授業校での学びを継続するために親としてどのような心得が必要かを改めて考えてみたいと思います。

まず親は、「子どもは大変な思いをしているんだ。」ということを忘れずに子どもたちを支援していかなければなりません。そして、子どもが二つの言語を学ぶということは、親も二つの言語習得のための心構えを持つ必要があるということでもあります。

大切な3つの支援と心構えを説明いたします。

#### ①認める姿勢を持つ

「がんばれ！」と激励するよりも「頑張ってるね。」と、認める姿勢が大切です。

頑張っているところに、さらに「がんばれ！」と言われても、子どもは困ってしまいます。頑張っていることを親が認めてくれれば子どもも安心します。

#### ②担任と同じ方向を向く

担任と親の言うことが違ふと子どもは混乱します。担任の方針に疑問点がある場合は遠慮なく担任と話し、お互いの誤解をなくすことで両者が同じ方向を向いた指導を行うことができ、効果が高まります。

#### ③家庭では日本語を使う

「家庭は第二の補習校」です。ご家庭では日常の会

話や生活場面で、出来るだけ日本語を使う環境を整えることが大切です。

以上、3つの心得を日頃から実践することで、保護者と子どもたちが充実した補習授業校生活を送っていただくことを願っています。

### 親が正直であれば・・・

子を持つ親へ、そして全ての大人に向けた子育ての指針とされる、米国の教育者ドロシー・ロー・ノルトさんの「子は親の鏡」の詩をご紹介します。



### 子は親の鏡

ドロシー・ロー・ノルト

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる  
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる  
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる  
「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、  
みじめな気持ちになる  
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる  
親が他人を羨(うらや)んでばかりいると、子どもも  
人を羨むようになる  
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう  
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる  
広い心で接すれば、キレる子にはならない  
誉(ほ)めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ  
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ  
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる  
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる  
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ  
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る  
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ  
やさしく、思いやりを持って育てれば、子どもは、やさしい子に育つ  
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ  
和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世はいいところだと思えるようになる

